

- ◆企画名 ピア・コミュニティ春合宿
 日程 平成25年3月9日(土)～3月10日(日)
 場所 関西大学 飛鳥文化研究所・植田記念館
 参加者数 42名(ピア・サポータ27名、研修生4名、教職員6名、学生支援室TA5名)
 目的

合宿を通してサポータ同士の繋がりを深め、自他のコミュニティを知ることによって、今後のサポート活動に活かしていく。

内 容

【当日スケジュール】

○1日目(9日)	○2日目(10日)
9:45 関西大学図書館前集合 樞原神宮前駅集合 関西大学 飛鳥文化研究所・植田記念館 到着	8:00 朝食 9:00 頭を起こすワーク(30分) 9:40 スキルアップワーク②(60分)
12:10 講堂集合 館内案内 開会あいさつ	10:50 職員によるワーク(70分)
12:30 アイスブレイク(60分)	12:00 昼食
13:40 スキルアップワーク①	13:00 アンケート記入 写真撮影 閉会のあいさつ
15:20 スポーツ企画(60分)	14:00 出発
16:30 KUSP ワーク(90分)	16:10 関西大学到着・解散
18:00 夕食・入浴	
20:30 懇親会	

感 想

- ・KUSP 企画により他コミュニティの問題点を知ることができ解決法をともに考えられた。
- ・他コミュニティともっと関わりを持ちたいと思うことができた。
- ・一人一人が前に出て発言する機会や、司会の役などなかなか普段の企画ではできなかったことを体験することができ、企画の楽しさを知ることができた。
- ・楽しいワーク班とスキルアップワーク班の企画を交互に行うことで企画のメリハリをつけることができ、合宿を楽しく過ごすことができた。
- ・合宿当日まで面識のなかった人とも仲を深める機会としてうまくいったと思う。
- ・前回の夏合宿では先輩主導で、一回生である私たちは先輩たちについていくことが多かったが、今回は自分たち主導でみんなで協力して当日を迎えることができた。
- ・今回は合宿運営において、運営本部主導ではなく運営班を組織して実施したことによって、企画段階から他コミュニティと交流することができたのは良かった。

改善点

- ・合宿班の会議の参加者が少ないときがあった。
→合宿班の人数が多いため、全員が集まれる日程を組むのが困難で人数を減らす。
- ・合宿の第一の目的を参加者に伝えるべきであった。
→しおりで書いておく。
- ・楽しむワーク班の企画内容が不明確であった。
→企画のシミュレーションを事前に行う。
- ・グループ分けを自由にしてしまうと決まったメンバーが多かった。
→事前にグループを決めておく。
- ・どのような手順で企画を行うかわからない人が多かった。
→大まかな計画をしっかり立てた予定表などを全員に配っておく。
- ・合宿班の人数が多くて、情報共有が上手に出来なかった。
→合宿班の人数を減らしてみる。
- ・スカイドライブをうまく使いこなせない人もいた。
→全員が使いこなせるデータ共有システムを利用する。
- ・せっかく飛鳥に来たのだから飛鳥らしさを体験できる企画が欲しかった。
→観光ではないのでピアの理念にかなった形で、企画を考えて行ってみる。
- ・バス内が暇であったり、決まった人で固まって座る人が多かった。
→バスの座席を決めたり、バス内でのレクリエーションを行う。